

資源集団回収

取り組みの概要

市民総ぐるみのごみ減量・資源化運動の展開を図るための事業の一環として、昭和55年度に資源モデル事業を開始。昭和60年から全市的な取り組みとして、回収された資源の量に応じて活動資金となる「資源集団回収奨励金支給制度」を設けました。平成4年11月から町内会毎に月1回「資源回収の日」を設定し、資源化運動の拡大を図っています。

協働の きっかけ

地域の環境保全などに対する自治活動と市の資源化施策の考え方を一体化させるものとして、地域や市民レベルでごみ減量と資源リサイクル運動に対する意識の高揚をねらいとしたものです。

清掃事業課



町内会、これに準ずる団体

・団体認定、助言ができる

強み

・町内会で意思決定し、回収業者の選定ができる

・実績管理、奨励金支給

役割

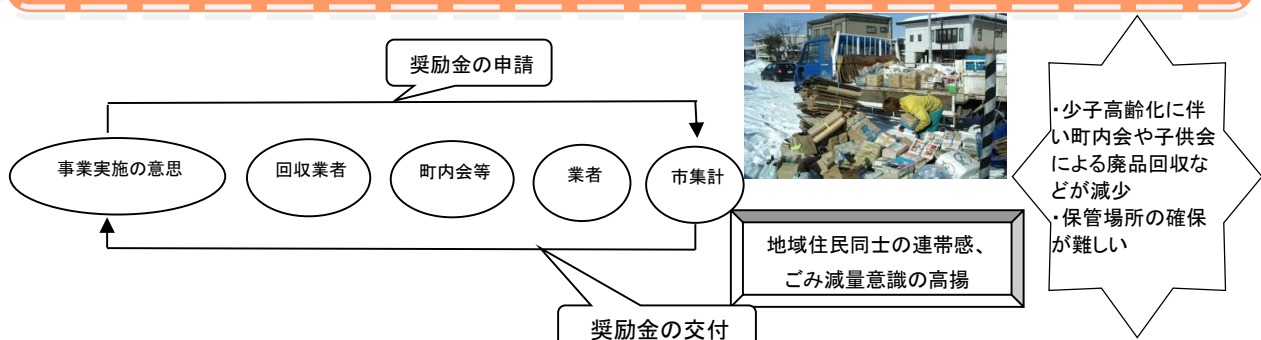
・資源回収対象品の分別、保管

協働の 成果

市内町内会において約8割程度が実施しており、実施団体は700団体を超えているなど、市民意識の定着化が図られてきました。

協働のポイント

新規の実施団体はなかなか増加しない現状にあります。



帯広の森づくり協議会

取り組みの概要

帯広の森はこれまで、市民植樹祭・市民育樹祭をはじめ、市民と行政が一体となって作り上げてきた都市公園です。

今後も「帯広の森」をより良いものとするために市民の方々と共に森づくりを進めていきたいと思えます。「市民協働の森づくり」を進めるためには、市民、企業、行政が情報を共有し、共に考え、それぞれが担う役割をしっかりと果たしていく必要があります。「帯広の森づくり協議会」はこうした「市民協働の森づくり」を円滑に進めるために、意見交換や検討、連絡調整をする場として活用しています。

協働の きっかけ

平成22年度に「帯広の森・はぐくむ」の供用開始を契機とし、帯広の森の適切な育成管理及び利活用の促進を図ると共に、市民協働の森づくりを進めるため、森づくりに関わる市民、事業者及び帯広市が参加して、帯広の森に関わる様々な事案について、検討、意見交換、連絡調整を行う事を目的に平成21年9月に設置されました。

みどりの課

- ・行政ならではの情報発信力
- ・関係各課と連携した対応

- ・事務局



市民（帯広の森づくり活動団体ほか） 帯広の森・はぐくむ指定管理者

- ・専門知識が豊富
- ・自主的な活動による知識や経験が豊富

- ・帯広の森の育成管理と利活用に関する意見と提案

強み

役割

協働の 成果

かつては、森づくり活動団体と市の連携や、森づくり活動団体同士の関係が希薄になりつつあったが、帯広の森づくり協議会で情報交換、議論、活動交流等を行う事により、互いの情報共有が図られつつあります。

協働のポイント

- 行政・市民団体双方の積極的な情報発信
- 各団体の交流がより深められるような創意工夫



落ち葉腐葉土化モデル事業

取り組みの概要

モデルとなる町内会や学校による協力のもと、地域にある公園・緑地や街路樹、学校等の公共施設から発生する落ち葉を収集し、切り返し作業などを行い、腐葉土化する取り組みです。出来上がった腐葉土は、公園や学校にある花壇等の土壌改良に活用していただいています。市は落ち葉を集積し、腐葉土化するためのボックスの貸与に加え、腐葉土づくりの作業における技術指導等を行っています。

協働の きっかけ

公園・緑地や街路樹等から発生する落ち葉は、木質バイオマス資源としての利用価値がありますが、十分な活用がされておらず、大半はゴミとして焼却処理されています。さらに、落ち葉の収集に要する作業の負担感等が、みどりに対するイメージ低下の原因のひとつとなっている現状があります。そのため、落ち葉腐葉土化モデル事業を進めることで、「ゴミ」から「資源」へと循環するしくみについて理解が深まり、木質バイオマス資源の地域内循環の仕組みを構築していくきっかけとなるように取り組んでいます。

みどりの課



町内会、学校

・行政ならではの情報収集・発信力

強み

・地域（学校）に密着した活動ができる

・腐葉土ボックスの貸与
・腐葉土づくり作業の技術指導

役割

・腐葉土づくり作業
・資源の活用

協働の 成果

本事業で製作した腐葉土は、公園や学校の花壇等に有効に活用されているほか、ゴミの収集及び処理に要する経費の節減につながっています。また、落ち葉を腐葉土化していく過程を体験することで、木質バイオマス資源の循環に対する理解につながり、環境教育としても役立てていただいています。

協働のポイント

□作業を軽減する手法の検討 □参加団体の増加に向けた取り組み



フラワー通り整備事業

取り組みの概要

市街地の緑化を補うため、道路の植樹帯（柵）を連続的に花壇化し、街並みに彩りを与えると共に、市民協働で行う事で緑化の啓発を行っている事業です。花苗、肥料などは帯広市が支給しています。

協働の きっかけ

市の中心部は、緑化のためのオープンスペースが少なく緑の空白地帯が多い為、フラワー通り整備事業を行う事で、植樹帯（柵）を連続的に花壇化し、街を緑と花で美しく飾り街路に色彩を与えています。
また、地域住民の協力を得て、植樹帯（柵）の清掃管理を併せて実施することで、地域美化、環境緑化に向けた意識高揚に繋がります。

みどりの課

・行政ならではの情報発信力

。花苗、肥料の配布



市民（町内会等）

・地域住民の行動力
・自主的な活動による知識や経験が豊富

・花苗の植栽
・日々の維持管理

強み

役割

協働の 成果

町を緑と花で美しく飾ることで、市民に潤いと安らぎを与えています。また植樹帯（柵）の清掃管理などを通じ地域の住民交流が深まり、地域美化、環境緑化に向けた住民意識の高揚に繋がっています。
・協力団体数 平成29年度 39団体

協働のポイント

□市民協働による彩豊かなまちづくり □地域同士の交流がより深められている



帯広を緑と花でつつむ花壇コンクール

取り組みの概要

市内に所在する団体（法人、町内会、商店街、老人クラブ、子ども会、婦人会、学校、各種サークル等）を対象に、市内の公共の場所（道路植樹樹、公園、小・中学校、公共施設の前庭等）に花壇を造成することを条件に、コンクール参加団体を募集しています。参加団体の花壇面積に応じて花苗を助成しています。

また、市と「帯広を緑と花で美しくする運動実行委員会（以下：花実）」の共催事業であり、花壇の総合美などを基準に審査し、受賞団体を決定します。

協働の きっかけ

帯広市と「帯広を緑と花で美しくする運動実行委員会」は、昭和59年度から、花壇コンクールを開催することで、市民の生活に潤いと安らぎを与えてくれる緑と花をいっぱいにする運動を推進しています。コンクール形式とすることで、花苗の一部を助成することで、市民の花壇造成の活動を啓発しています。

みどりの課



町内会、商店街、 老人クラブ、企業、学校等

行政ならではの情報収集・発信力

強み

地域に密着した活動ができる

花苗の助成
審査・表彰式の実施

役割

花壇の造成・管理

協働の 成果

市民の憩いの場となる公共スペースにおける花や緑の創出が市民の手により成されています。特に植樹樹の花壇造成が増加傾向であり、市内の彩りの増加に貢献しています。花壇造りを通して地域の繋がりが強くなったという声も聞かれます。

協働のポイント

□参加団体の増加に向けた取り組み □若い人を取り込む仕組みづくり



市民協働による帯広の森づくり

取り組みの概要

森づくりに関心のある市民団体（森づくり活動団体）に森づくりの場や、機会を提供、支援し、市民協働による帯広の森づくりを進めます。

協働の きっかけ

森づくりに直接関わりたいという活動団体の要望を取り入れて、市民協働による森づくりを推進します。

また、森づくり活動団体の活動実施状況を把握し、得られた成果、情報を市民へ提供したり、これからの森づくりに活用していく事で、市民の帯広の森への関心や、森づくりの意識が高まる事が期待されます。

みどりの課

- ・関係各課と連携した対応
- ・広報おびひろによる普及啓発

- ・森づくり活動の承認申請
- ・森づくり活動団体の普及啓発



市民（帯広の森づくり活動団体）

- ・行動力がある
- ・日々帯広の森に触れており
情報収集力がある

- ・帯広の森の育成管理を行うボランティア

強み

役割

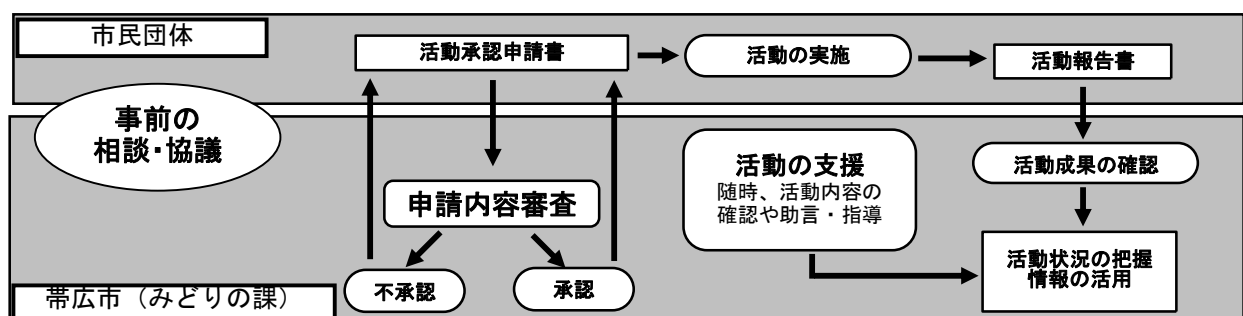
協働の 成果

森づくり活動団体が協働に取り組むことで、直接森づくりに参加したり、活動団体の行事に市民が参加するなど、森に関わる機会が広がりました。

- ・森づくり活動団体数の増加 平成9年度 1団体→平成29年度 8団体

協働のポイント

- 行政・市民団体双方の積極的な情報発信
- 各団体の交流がより深められるような創意工夫



公園・緑地等の維持管理

取り組みの概要

地域に密着している街区公園等の日常的な維持管理を、近隣の町内会等が行います。

協働の きっかけ

公園の維持管理を市民協働で行うことで、身近なコミュニティの場として公園が地域に根ざし、地域住民が愛着を持ち公園の利活用が図られることを目的としています。

みどりの課

- ・ 地域の要望を把握
- ・ 施設の異常の早期発見

- ・ 樹木剪定、施設修理



町内会等

- ・ 地域に密着した活動ができる

- ・ 公園の清掃・草刈・軽微な剪定・遊具点検など
- ・ 異常の情報

強み

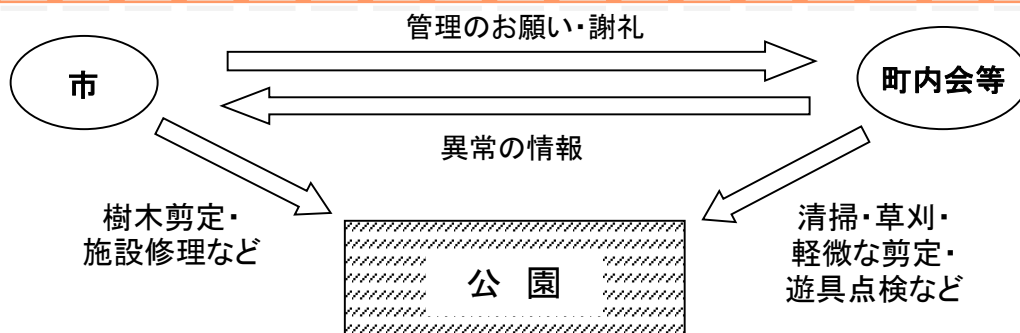
役割

協働の 成果

地域が公園の維持管理に携わることで、公園が市民に身近なものになり大切に利用されているほか、施設の異常の早期発見に繋がっています。

協働のポイント

一部の管理団体では、会員の高齢化などにより、公園の維持管理の担い手不足が生じています。



花コミュニケーションとかち

取り組みの概要

花のある街並みづくりと花を通じたコミュニティの広がりを目指し、出展者が製作したハンギングバスケットやコンテナなどの花の寄せ植え作品をとまちプラザ南公園に1週間程度展示する「花コミュニケーションとかち」をはじめ、花の講習会やトークショー(講演会)などの事業を、帯広市・企業・市民が一体となって進めています。

これまでに地元の花愛好家から延べ2000点を超える作品が出品されており、来場者などへ癒しの空間を提供しています。また、園芸を学ぶ十勝管内の高等学校や地元の団体などとコミュニケーションの輪を広げながら、ともにガーデニングの普及活動を実施しています。

協働の きっかけ

平成11年、12年に企業主催で開催されたハンギングバスケットコンクールの参加者を中心に、自分達で新しい「花のコンクール」を実施しようという気運が盛り上がり、平成13年に「ふるさと花コンクール事業」を開催したことが始まりです。平成18年からは、新たな出品者を開拓するため、従来のコンクール形式を見直し、お互いの作品を「見せ合う」場に変え、名称も「ふるさと花コンクール」から「花コミュニケーションとかち」に変更し、多くの参加者の下に実施されています。

みどりの課
十勝毎日新聞社
NHK帯広放送局



花コミュニケーションとかち実行委員会
市民
協賛・協力企業

- ・情報収集・発信力
- ・それぞれの組織ならではのノウハウ

強み

- ・行動力がある
- ・知識や経験が豊富
- ・協賛企業による支援

- ・金銭的な支援(負担金の支出)
- ・事務局として実行委員会をサポート
- ・イベントの情報発信

役割

- ・イベントの企画・運営

協働の 成果

毎年100点以上の花の寄せ植え作品の出展があり、ハンギングバスケットをはじめとしたガーデニングの普及・拡大や愛好者層の定着に、大きく貢献しています。

協働のポイント

- 市民主体で企画・運営を担い、行政や企業がフォローする



水洗化の普及促進

取り組みの概要

下水道処理区域内の未水洗建物に対する水洗化を促進するため、下水道事業推進員による戸別訪問を行ったり、既設の汲み取り便所を水洗化又は新たに雑排水設備を設置する場合、工事費の全部又は一部を無利子貸付します。（金融機関への預託方式で実施）

協働の きっかけ

下水道法の規定により、下水道が供用開始されると下水道に接続したり、水洗化をしなければなりません。水洗化できない方には、下水道事業推進員が個別に相談を受け、資金貸付の希望があれば排水設備改造資金を無利子で貸付するなどにより、普及促進を図ります。

下水道課



地域住民（下水道供用開始区域内）、 金融機関、行政

・下水道法による水洗化の義務

強み

・生活環境向上

・戸別訪問
・貸付制度 P R
・金融機関への利子補給

役割

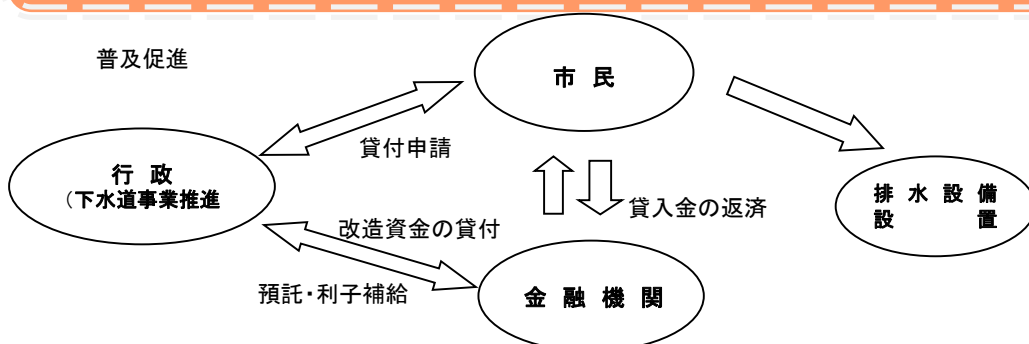
[地域住民]・排水設備設置
[金融機関]・改造資金貸付

協働の 成果

下水道事業推進員が個別訪問することにより、水洗化できない多様な事由に対し、きめ細かく対応ができます。また、希望者に対し排水設備改造資金の無利子貸付を行うことで、水洗化の促進が図られます。

協働のポイント

未水洗建物は老朽化した建物が多く、建替え時期との関係もあり、計画どおりに進まない場合があります



学校図書館活性化支援事業

取り組みの概要

各小中学校の学校図書館に、ボランティア、PTA、学校教職員等で構成する図書館活性化支援事業運営委員会を組織し、朝・昼・放課後の読み聞かせや、本の整理・修理、新刊図書の受け入れ、環境整備など学校図書館の運営を行っているものです。

協働の きっかけ

学校図書館における読書活動の推進により、児童生徒の心豊かな成長と必要な情報の収集及びその活用能力の向上を図り、また、学校図書館を活性化し、地域社会の発展に資することを目的とします。

学校教育課

- ・学校図書館を活性化し、地域社会の発展に資すること

- ・図書の紹介、整理、修理
- ・新刊図書の登録



地域住民（PTA等）

- ・児童生徒の心豊かな成長と必要な情報の収集及びその活用能力の向上

- ・他校のボランティアとの交流
- ・絵本の読み聞かせ など

強み

役割

協働の 成果

学校図書館による読書活動を推進し、児童生徒の読書機会の充実が図られています。

協働のポイント

ボランティアの担い手が不足する学校があります。保護者ボランティアは、子どもの卒業と同時にボランティアも辞めてしまい、後継者探しが困難になることもあります



～こども学校応援地域基金プロジェクト～

取り組みの概要

帯広の未来をつくる子供たちの成長のために、学校・家庭・地域総ぐるみで支援する気運をこれまで以上に高めることを目的として、既存の様々な取り組みのネットワークを構築するため、平成27年5月から始まりました。

具体的には、子供に関わる活動をしているボランティアの連携を深めていくことと、基金の創設して子供たち向けの行事等に取り組むボランティア活動を財政面で支援することです。

協働の きっかけ

各ボランティア団体が抱えている人材不足、後継者不足、資金不足を連携することで解消していくため。

学校教育指導室、学校教育課、企画総務課、生涯学習課、市民活動推進課、青少年課、こども課



こどもに関わるボランティア活動を行っている団体や個人

・複数課が関係しているので、庁舎内の横の連携がある。

強み

・自主的な活動による知識や経験が豊富
・行動力がある

・交付金の交付
・こども応援！みらいカフェの実施
・情報発信

役割

・各ボランティア団体との連携

協働の 成果

少しずつ、ボランティア同士の横のつながりや連携がうまれてきている。

協働のポイント

□ボランティアが交流できる場を設定する



若者が牽引するしごとづくり・まちづくりプラン推進事業

取り組みの概要

帯広畜産大学の学生が主体となり、地域のしごとづくり・まちづくりに貢献するための事業を進め、地域産業の競争力強化、中心市街地活性化などに取り組むものです。あわせて、学生の「地域愛」を醸成し、卒業後も十勝・帯広の応援団として一層活躍いただくことをめざしています。

具体的には、地元企業のニーズを踏まえた共同研究と、学生主体による地域活性化支援「ちくだいらんぷ」を展開しています。

協働の きっかけ

帯広市では、人口減少の進行を踏まえた活力あるまちづくりに向け、「帯広市まち・ひと・しごと総合戦略」を策定しました。その取り組みの一環として、十勝の将来をつくる若者の地元定着をめざし、大学と連携し平成27年度から本事業がスタートしました。

政策室ほか関係課



帯広畜産大学

・関係機関等との幅広いネットワーク

強み

・学生の柔軟な発想と行動力
・大学教職員の知識と経験

・関係機関等との調整
・補助金の交付 など

役割

・各種取り組みの企画、運営など

協働の 成果

中心市街地の新たな魅力として「十勝ジンギスカン会議」が定着してきたほか、地元企業と連携したパンが商品化されるなど、学生の企画による取り組みの成果が現れてきています。

協働のポイント

□学生の発想と行動力を活かした企画の具体化 □地元企業や行政のサポート



十勝ジンギスカン会議



学生と企業の共同研究

馬のいるまちづくり共同事業

取り組みの概要

帯広市と帯広畜産大学が共同のまちづくりの一環として、馬のいる地域づくりを推進するとともに、大学の馬を用いた福祉、健康面における研究を充実するために、児童生徒、障害者、高齢者などを対象とした馬の総合事業を展開するものです。

協働の きっかけ

帯広市と帯広畜産大学が締結している包括連携協定に基づいた取り組みの一環として、馬を活用したまちづくりを進めることとし、平成26年度から本事業がスタートしました。

政策室ほか関係課



帯広畜産大学

・関係機関等とのネットワーク

強み

・馬場など活動のフィールドが学内に存在
・大学教職員及び学生の知識と経験

・関係機関等との調整
・イベントの共催、業務委託 など

役割

・各種取り組みの企画、運営 など

協働の 成果

障害のある児童生徒を対象とした「障害者乗馬体験」や、適応指導教室ひろびろの児童生徒を対象とした「馬との触れ合い体験」が進められているほか、大学の取り組みの成果等を市民へ周知する場として、「ちくだい馬フォーラム」が開催されています。

また、事業を実施する中で、大学生が積極的に関わっており、スキルの向上につながって

協働のポイント

□障害のある方、適応指導教室に通学する児童・生徒の心身の健康増進等への寄与

帯広市わかば会

取り組みの概要

昭和48年に発足した生涯学習を積極的に実践する高齢者自主学習グループ。平成29年度会員698名。帯広シニアサークルふたば（帯広高齢者学級）を修了した賛同者が市内9地区のわかば会に入会。全会員で行なう合同学習、各地区で行う地区学習にて多岐にわたる学習会を開催し、各委員会活動によりボランティア活動等の社会貢献の実践を積極的にすすめている自主学習グループへの協力、相談、支援を行っている。

協働の きっかけ

高齢者の生涯学習活動を通し生きがいを推進し、より多くの高齢者が主体的に社会参加できるよう高齢者学習相談員を配置し促進に努めている。

生涯学習課



高齢者学習相談員

広報活動・信頼と実践

強み

地域に根付いた活動

高齢者学習相談員を通し高齢者の生涯学習への意欲を高める

役割

高齢者への生涯学習活動の相談、支援

協働の 成果

高齢者の自主的、主体的な生涯学習活動の充実とさらなる推進

協働のポイント

高齢者学習相談員との連携、協力によって地域に根付いた相談、支援活動ができる。



プラザ・エンジョイスクール

取り組みの概要

高校生以上を対象に「趣味・教養」講座を各種開講し、趣味・教養を身につけながら、ふれあいの輪を広げ、誰もが気軽に学べる学習機会を提供しています。講座は、音楽・語学・書道・健康スポーツ・パソコン等、広い分野で開講しています。

協働の きっかけ

誰もが気軽に学べる機会を提供するとともに、市民の生きがいづくりを促進することを目的に、プラザ・エンジョイスクール運営委員会の自主運営により、平成8年度から趣味・教養講座を開講しています。

生涯学習課

- ・市民に対し、広く情報を周知することができ、受講生募集に向けて効果的な広報活動が可能。

- ・運営の指導・監督。
- ・広報活動（広報誌、チラシ配付、SNSによる周知等）。



プラザ・エンジョイスクール 運営委員会

- ・講師、受講生、一般公募委員により構成される「市民主体」の組織であるため、住民の学習ニーズを適切に汲み取ることができる。

- ・運営委員会を開催し、運営全般について議論し、方向性を決定する。

強み

役割

協働の 成果

- ・年齢や男女の区別のない、学習機会の充実が図られます。
- ・幅広い年齢層の中で、学習を通じた交流が図られます。
- ・平成29年度 150講座開講、受講者1,975人。

協働のポイント

講座によっては受講者が減少傾向にあるため、運営委員会において検討し、改善を図ります。

シェフの簡単料理→



←背骨コンディショニング

運営委員会

・講師、受講生、一般公募委員で構成

事務局

・とかちプラザ
指定管理者オカモト

帯広市(生涯学習課)

・運営の指導、監督をおこなう

コミュニティ講座

取り組みの概要

市内全小学校区に組織されている「生涯学習推進委員会」が中心となって、地域の関係団体等と連携を取りながら、地域センターや学校等で講座を開催しています。

協働の きっかけ

生涯学習推進委員会は、一生を通じて豊かな人間形成をはかる生涯学習の観点に立ち、住みよいコミュニティづくりを目指し、地域における生涯学習活動を自主的に推進することを目的に創設されました。
『地域から発想する生涯学習』を合言葉に、市民の積極的なボランティア参加によって自主的に運営され、地域や生活の様々な課題を中心に学習することで、自己啓発とコミュニティづくりをすすめます。

生涯学習課



生涯学習推進委員会 (小学校地区で組織)

広く情報収集を行い、広く情報発信
することができる

強み

住民との距離が近いため、行政や自らが提供する学習機会や学習情報を周知
することができる

- ・補助金の交付
- ・ホームページやSNSによる周知
- ・チラシ作成等の生涯学習活動の補助

役割

- ・学びや交流の機会をつくる提供者
- ・住民の学習活動を指導していく指導者
- ・社会教育行政と地域住民とのパイプ役

協働の 成果

生涯学習推進委員会が行う自主的な取り組みに対して助言・支援等を行うことにより、団体等の自律性や活動基盤を強化するとともに、帯広市における社会教育活動の促進を図ることで、地域に根ざした特色あるコミュニティ講座などの生涯学習活動展開され、安定した住みよい地域社会の形成に寄与しています。また、帯広市PTA連合会や子どもの居場所づくりなどといった地域の社会教育関係団体との連携した講座により、世代間交流事業の推進も図られています。

協働のポイント

人材の確保・育成、地域の他団体と連携・協働した講座を企画・運営していくこと

講座の企画立案



講座の案内周知

講座の実

例: 下の句かるた大会



まちづくりへの意識の高揚

推進委員: 講座の企画立案、PR活動
町内会: PR活動
市民: 講座への参加
行政: PR活動、講師謝金負担

図書館ボランティアの充実・促進

取り組みの概要

市民ボランティアの組織の結成促進を図り、図書館活動充実のために協働による活動を行います。

協働の きっかけ

まちづくり創造事業をきっかけとし、図書館におけるボランティア団体の結成を目途とした各種研修会を実施し、平成14年度に旧帯広図書館友の会の結成がされました。今後も図書館ボランティアの活動を補助し、当該団体の活性化によるきめ細かな図書館サービスを目指します。

ボランティア技術向上講座等の実施により新たなボランティアの育成に努めます。

図書館

- ・行政ならではのノウハウ
- ・情報収集と発信力

- ・活動の助言・補助
- ・ホームページやSNS、ポスター掲示などの情報発信



帯広図書館友の会

- ・自主的な活動による知識や経験が豊富
- ・行動力がある
- ・マンパワーがある

- ・各種取り組み・行事の企画・運営
- ・図書館事業、行事への参加・協力

強み

役割

協働の 成果

平成29年度で設立15年目を迎え会員数は100名前後で推移しています。ボランティア会員の情熱と熱心な行動で、会の運営を進めています。現在は、お話部門、製作部門、製本部門、ハンディキャップサポート部門、フロアサポート部門、つどい部門の6部門に分かれ活動中です。

協働のポイント

ボランティア活動の活性化を維持するために、新規加入者獲得に努めています。

市(図書館)

ボランティア

協力・支援

【役割】

- ・図書館ボランティア活動補助
- ・ボランティア養成講座等の実施

【役割】

- ・図書館と協力して、利用者へのきめ細かなサービスの提供、拡充(おはなし会・読み語りの実施、布の絵本、エプロンシアターなどの製作、対面朗読、図書館内フロア案内、事業の企画運営等)
- ・図書館への提言、提案

利用者

市民文庫マスター

取り組みの概要

地域に市民文庫を開設し、ボランティアで読書活動の推進を担っている「市民文庫マスター」宅に本を配本し、図書館から距離的に遠い地域の市民に対し、身近な場所で本の貸出を行っています。

協働の きっかけ

「一人でも多くの人に一冊でも多くの図書を」を基本方針に、図書館から地域に開設した市民文庫マスター宅に本を配本し、マスターから市民に貸出することにより、市民の利便性を図り読書の普及を図ることを目的に始めました。

図書館

- ・多種多様な本が準備できる

- ・市民文庫マスターへの配本、回収（毎月）



市民文庫マスター

- ・地域の事情に詳しい
- ・利用者ニーズに対応し易い

- ・地域での利用者への本の貸出し、返却業務の実施

強み

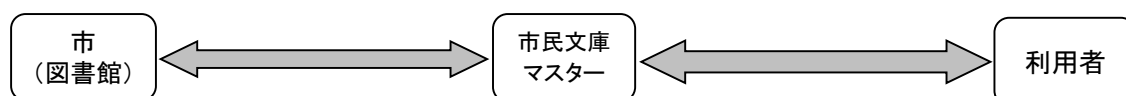
役割

協働の 成果

図書館活動に理解のある文庫マスターが地域に置いて事業を展開し、長年にわたり市民への読書活動の推進に重要な役割を担ってきましたが、近年では利用者の減少や市民文庫マスターの高齢化等により、平成29年度で個人の市民文庫マスターは終了し、団体1件が活動を行っています。

協働のポイント

移動図書館等、地域サービス全体で取り組んでいく必要があります。



【役割】

<市>

- ・市民文庫マスターへの本の配本、回収（毎月）
- ・各事業の日程調整、助言等
- ・関係機関への周知、連絡、調整

【役割】

<市民文庫マスター>

- ・利用者への本の貸出、返却業務の実施
- ・図書交換会の準備、実施、後片付け
- ・おたのしみ文庫配本の準備、実施、後片付け

フードバレーとかちマラソン大会

取り組みの概要

市民の健康・体力づくり等のスポーツ機会の提供と、生涯にわたる心身の健康増進等に対する意識の高揚をはかるとともに、スポーツを通じた多様な交流を促進し、オール十勝ですすめている「フードバレーとかち」の取り組みや地域の食と農林漁業の国内外への効果的な発信に寄与します。

協働の きっかけ

マラソン大会を開催することにより、市民へのスポーツ機会の提供を図り、よりスポーツを身近に感じることができるような環境を整備するとともに、市外からの参加者も多く募り、競技性と観光イベントをマッチングさせた魅力のある大会を目指し、街ににぎわいを創造し交流人口を増やすねらいがあります。

スポーツ振興室



市民、スポーツ推進委員等

行政手続きなどの円滑なサポート

強み

- ・ランナーへの応接
- ・交通規制への協力

- ・実行委員会の開催
- ・実施事業者との連携

役割

- ・観衆の整理、選手の走路確保のための警備、交通規制の案内等
- ・選手の給水を円滑に行う など

協働の 成果

平成29年度は、十勝管外からの3,458人を含む5,614人がエントリーし、5,072人が晩秋の帯広を疾走いたしました。また、運営では町内会などのボランティアなど743人ものの方々の協力を得て無事に大会を終えることができました。

協働のポイント

スタッフやボランティアをはじめ、沿道で応援する方、交通規制に協力いただく市民や企業など、たくさんの人が関わり、帯広に根付いた大会となりました。

実行委員会

帯広市・帯広市教育委員会・帯広ホテル旅館組合・帯広商工会議所・帯広観光コンベンション協会・北海道新聞社帯広支社・十勝毎日新聞社・十勝陸上競技協会・帯広青年会議所・帯広市文化スポーツ振興財団・帯広コア学園・北海道警備業協会帯広支部



※市民ボランティアの役割
マラソンコース沿道整理スタッフ
(観衆の整理、選手の走路確保のための警備、交通規制の案内等)
給水スタッフ
(選手の給水を円滑に行う) など



十勝大平原クロスカントリースキー大会

取り組みの概要

雪を冠した日高の山並みは圧倒的な力強さと、凜とした美しさをたたえています。そして、その裾野に広がる雄大な十勝大平原は、厳しい冬を迎えると、どこまでも銀色に光輝く大平原に姿を変え真っ白な地平線が、真っ青に澄み渡った大きな空とせめぎあいます。

この大会は、十勝大平原国際クロスカントリースキー大会を継承し、冬の健康づくり、体力づくり並びに人と人との交流の拡大を図ることを目的とします。

協働の きっかけ

平成9年度（1998年）から広域開催（帯広市・芽室町・中札内村）として7年間開催した「十勝大平原国際クロスカントリースキー大会」を継承し、名称を「十勝大平原クロスカントリースキー大会」と改め、冬期間の健康・体力づくり、生涯スポーツとしてのクロスカントリースキー競技の普及振興並びに人的交流を図ることを目的として、平成16年度（2005年）からは帯広市単独で開催しています。

スポーツ振興室



町内会、スポーツ推進委員等

○行政手続きなどの円滑なサポート

強み

○地域をあげた盛り上げと協力体制の構築

○実行委員会の開催
○関係団体間の連携・調整

役割

○給食所や道路横断箇所の警備など大会運営全般

協働の 成果

帯広市内外から500名以上が参加する大きな大会が滞りなく進めることができています。

協働のポイント

開催から20年が経過し（帯広市単独開催となつてからは13年）、地元市民の高齢化等により協力が得られにくくなっている。

実行委員会

帯広市、帯広市教育委員会、北海道新聞社、十勝毎日新聞社、帯広市体育連盟、帯広市文化スポーツ振興財団、帯広市スポーツ推進委員協議会、帯広商工会議所、帯広市交通安全推進委員連絡協議会、帯広クロスカントリースキークラブ、芽室町内会、八広地域むらづくり構想推進委員会、太平町内会



新聞社2社：広報担当

町内会、スポーツ推進委員、交連協：警備、給食所担当

クロカンクラブ：コース整備担当

体育連盟：表彰、写真撮影担当

パークゴルフ場管理運営

取り組みの概要

パークゴルフ場の効率的な管理を図るため、市民協働による管理運営を推進しています。

平成 29 年度実施規模

- ・公設パークゴルフ場 24 箇所のうち 13 箇所で実施。

協働の きっかけ

第二次行革の一環として、経費の削減と受益者負担の観点から管理の一元化と一部施設の有料化を検討した結果、利用料収入が新規経費を下まわり、これまでの維持管理費に加え新たな税負担を要することが判明しました。

また、有料化による利用者の減少は、健康スポーツの普及・振興の観点からも好ましくないため、当面、有料化を見送り市民が愛着を持って自主管理する仕組みづくりを目指す方向としました。

スポーツ振興室



各パークゴルフ 地域同好会

- ①地域づくりに対する市民の意識高揚
- ②高齢者等の社会参画への拡大
- ③新たな施設整備への経費転換

強み

- ①自主管理によるハイレード化
- ②コースに対する愛着
- ③生きがいづくり

- ①市民が担う業務に必要な草刈機、刈払機等を貸出・貸与するほか、自主活動費を助成。
- ②地域同好会が担う業務以外を指定管理者が管理。
- ③効果額の一部を環境整備費用に充当

役割

- ①草刈、落葉収集、肥料散布等の新たな業務を担う。
- ②既に担ってきている、団体利用調整、カップ移動・埋め戻等の業務

協働の 成果

市民

自主管理によるハイレード化・コースに対する愛着・生きがいづくり

行政

地域づくりに対する市民の意識高揚・高齢者等の社会参画への拡大・新たな施設整備への経費転換

協働のポイント

- ・地域同好会の存在しないパークゴルフ場における同好会の立ち上げが必要。
- ・同好会メンバーの後継者育成。
- ・新たに実施を希望する団体があつたとき及び取り止めする場合における指定管理者との協定内容(指定管理料等)の扱い。

＜市民協働による管理運営を行う上で、市民と行政が下記の役割を分担する＞

○地域同好会

- ①草刈、落葉収集、肥料散布等の新たな業務を担う
- ②既に担ってきている、団体利用調整、カップ移動・埋め戻等の業務

○行政の役割

- ①市民が担う業務に必要な草刈機、刈払機等を貸出・貸与するほか、自主活動費を助成
- ②地域同好会が担う業務以外を指定管理者が管理
- ③効果額の一部を環境整備費用に充当

帯広市男女共同参画推進員との連携事業

取り組みの概要

男女共同参画社会の形成には、家庭や学校、職場、地域社会において市民一人ひとりが、生活や意識、慣習の中に社会的性別にとらわれない個人の尊重と、男女平等意識を身につけることが重要です。そのため男女共同参画に関する市民の理解を深めることを目的に、帯広市が実施する「男女共同参画セミナー」の企画・運営、「男女共同参画情報誌カスタネット」の取材・編集、男女共同参画にかかる朗読劇を「出前講座」で実施するなど、男女共同参画に関する考え方を地域の身近なところで市民に伝えていく活動を行っています。

協働の きっかけ

市が主催の「男女共同参画講座」修了者からの応募による「男女共同参画推進員」登録制度により、平成13年から協働しています。

男女共同参画推進課

- ・推進員を通して、男女共同参画推進の意識の啓発ができる
- ・事業の実施過程を通じて人材育成を図る

- ・内容の企画・検討
- ・活動のPR・運営
- ・経費負担



男女共同参画推進員

- ・市民へ男女共同参画に関する意識の啓発ができる

- ・内容の企画・検討
- ・活動のPR・運営

強み

役割

協働の 成果

男女共同参画推進員の身近で感じる話題提供により、市民の関心や意識が掴みやすくなりました。同時に、市民にとっては身近な人(男女共同参画推進員)からの情報提供は関心を引きやすく、事業への参加・興味につながっています。

協働のポイント

事業の参加者に性別・年代による偏りがあります。事業効果の測定が困難であることが課題です。

男女共同参画セミナー



男女共同参画情報誌
カスタネット



出前講座



コミュニティ施設の運営管理

取り組みの概要

地域のコミュニティ活動を活発にするため、帯広市総合計画に基づき、コミュニティ施設を整備しています。地域住民の自主性を尊重し「市の直営管理」＋「住民組織の運営参加」方式として、地域住民で組織する運営委員会が利用者から維持協力費を徴収し運営をしています。

協働の きっかけ

コミュニティ施設は公の施設ではありますが、地域住民の利便性を考えた場合、弾力性のある開放的な運営が望ましいため、地域住民による自主性かつ効果的な運営が求められました。地域住民がボランティアとして参加する運営委員会を立ち上げ、公的施設を運営面から行政との協働を目指したものです。

市民活動推進課

・弾力性のある開放的な施設運営ができる

・職員配置
・施設全体の管理・調整
・大規模修繕など



コミュニティ施設周辺の住民 (町内会)

・コミュニティ施設の利便性向上

・センター受付
・維持協力費徴収
・小規模修繕など

強み

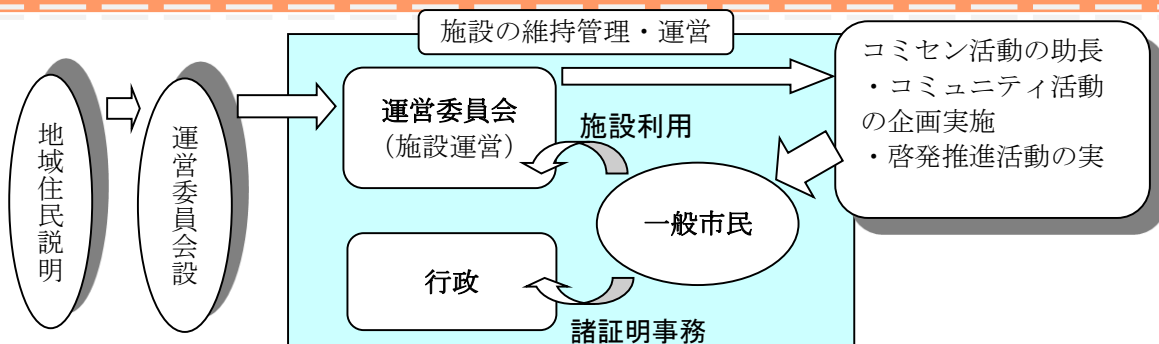
役割

協働の 成果

運営母体が地域住民であることから、地域コミュニティ活動の拠点として成り立っています。

協働のポイント

各地区の生活環境や施設の老朽化などにより、利用状況に大きな影響を及ぼすなど、地域格差をどう改善していくか



ちょっと暮らしサポート事業

取り組みの概要

「ちょっと暮らしサポーター」として、民間事業者等の協力・参加を得て、帯広市への移住等を検討して短期滞在（ちょっと暮らし）する方に対して、滞在施設を一定の要件に基づいて提供するとともに、情報提供や相談対応などのサポートをし、定住・交流人口の増加を促進します。

協働の きっかけ

移住への関心の高まりや移住希望者の多様な宿泊ニーズに応える必要があるなか、市では、市有施設を利用した短期滞在施設を確保することが難しい状況にあるが、市内に多くあるホテルや旅館等（＝民間の施設）を有効活用し、滞在施設を確保しようとしています。

企画課

・本市への移住・交流の促進を図ることができる。

・サポーターの募集・登録
・移住PR・相談対応窓口の開設



事業者（旅館業者、 ホテル業者等）、市民

・移住希望者が、短期滞在する潜在施設を提供することができる。

・潜在施設提供
（生活体験可、安心・低料金）
・生活情報提供・アドバイス

強み

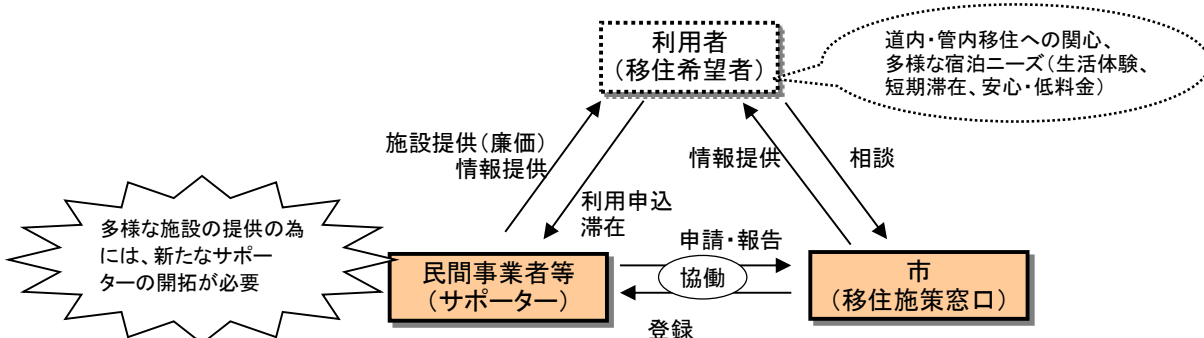
役割

協働の 成果

- 市へ移住相談・滞在希望が寄せられた場合は、サポーターの紹介に努めており、徐々に利用実績が増加しつつあります。
- サポーターの施設を利用し、実際に市内に移住した事例もあります。

協働のポイント

施設の提供以外にも、移住・交流の促進のため行政と民間事業者がさらに連携していく必要があります。



外国人講師派遣事業

取り組みの概要

帯広・十勝に在住、留学又は研修のために来滞している外国人で、自国の文化等について指導や助言・紹介できる人を、市民が主催する行事等へ講師として派遣、又は紹介することで、地域住民と外国人との交流を進め、相互の異文化理解を深めるものです。

協働の きっかけ

十勝管内に在住する外国人やJICA北海道国際センター（帯広）の研修員が地域住民と交流する機会がほしいとの考えと、地域住民が国際交流や異文化に対して理解する機会を得たいという考えがあり、お互いの思いが一致したことが始まりです。市民と外国人の異文化理解を深めると同時に、在住外国人の地域社会への参加を促進します。

親善交流課 （森の交流館・十勝）



市民、外国人

- ・市民の自主性を啓発
- ・在住外国人の地域社会への参加を促進

強み

- ・国際交流の機会や異文化理解の機会を得ることができる

- ・周知活動
- ・外国人講師の登録・調整・派遣
- ・事業に対する評価・見直し

役割

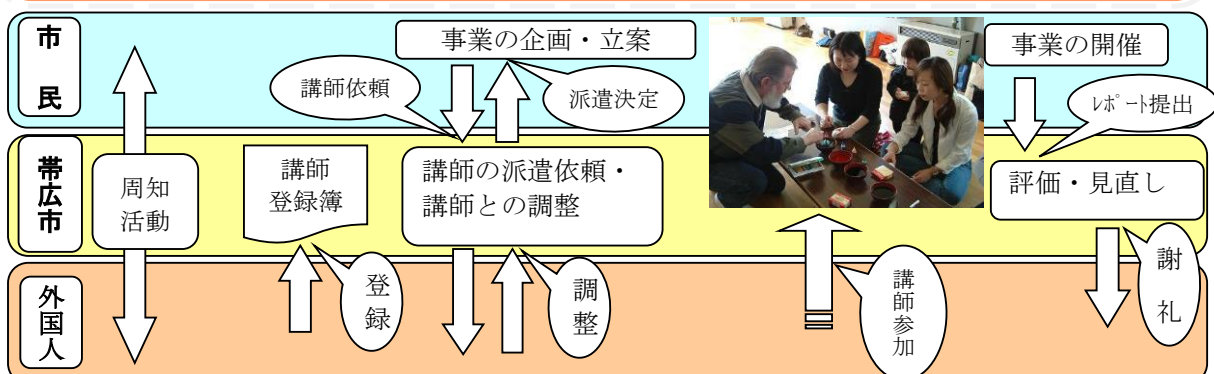
- ・事業の企画・立案・開催
- ・自国文化の紹介

協働の 成果

地域住民が自主的に行事計画を作成・実施等することに対する意識の向上や在住外国人と身近に接することにより、互いに国際交流に対する意識が高まりました。

協働のポイント

地域住民と外国人の相互の異文化理解が深まります。



「声の広報」の制作

取り組みの概要

昭和53年7月より視覚障害者などを対象に、市政の周知や理解を図るため、広報紙「広報おびひろ」をカセットテープに吹き込み、社会福祉法人ほくてんがCD-RWに複製し、「声の広報」を発行、利用希望者に届けています。平成10年10月からは「声の広報」を音訳サークル「なすの会」の協力により吹き込みを開始しました。

協働の きっかけ

当初、視覚障害者などに必要と考えられる情報を広報紙から抜粋し、声の広報として作成していました。しかし、「その情報は、受け取り側の選択肢を制限している。本来、広報紙の内容をそのまま提供することが望ましい」という音訳ボランティアからの指摘を受けて見直しを検討しました。現在は音訳ボランティアとの協働の取り組みにより、広報紙情報を極力制限せずに情報提供することを実現し、視覚障害者の市政理解の促進に努めています。

広報広聴課

- ・視覚障害者への情報提供ができる

- ・読み原稿作成・留意点指示
- ・録音の校正・検収



音訳サークル なすの会

- ・ボランティアの自己研鑽と活動の拡大
- ・行政との協働への取り組みから会への信頼が高まる

- ・録音・校正
- ・マスターテープの編集作成・テープ納品

強み

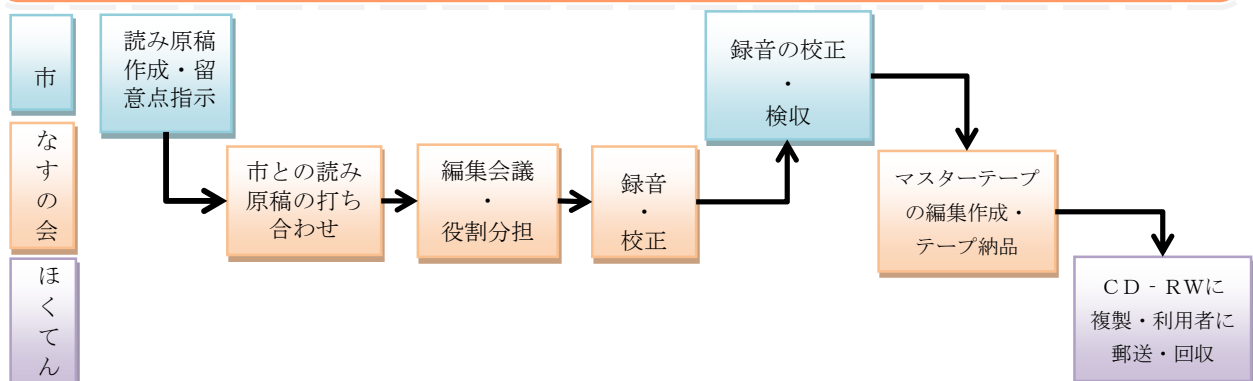
役割

協働の 成果

現在は、なすの会の会員のご協力により「声の広報」制作業務は円滑に行われているとともに、行政との協働への取り組みから会への信頼が高まり、双方にとって効果的な取り組みにつながっています。

協働のポイント

なすの会会員の技術の継承と人材育成のほか、音訳に対する行政への要望などを把握することが必要です。



おびひろ応援寄附金（ふるさと納税）推進事業

取り組みの概要

おびひろ応援寄附金（ふるさと納税）推進事業は、地域の魅力を発信し、帯広市を応援していただける方を増やしていくために、市内事業者に商品提供などの協力をいただきながら、寄附者（市外に居住する個人）に対して、返礼品を送付する事業です。

協働の きっかけ

平成29年に本市が返礼品の送付を開始する際に、市内事業者に対して、本市の魅力発信に資する商品等の募集を行い、事業者より商品等の提供をいただきながら、返礼品を通じた本市の魅力発信を行っています。

企画課

- ・魅力ある返礼品の一体的・効果的な情報発信

- ・返礼品や寄附金使途を含めたふるさと納税のPR
- ・返礼品内容の確認



返礼品取扱事業者 （市内企業等）

- ・地域の魅力を活かした商品等の開発や提供ができる。

- ・魅力ある返礼品の開発・提供
- ・寄附者への返礼品の送付

強み

役割

協働の 成果

寄附者に対して、返礼品の送付を通じて帯広市の魅力を発信することにより、寄附金・寄附件数の増加、自主財源の確保等につながっています。

協働のポイント

○帯広市ならではの返礼品の送付を通じた地域の魅力発信

